

	年 号		事 象
	和 曆	西 曆	
原始	弥生中期	前 100	寺本の谷の弥生集落（法海寺遺跡・野埼遺跡）
	宣化 3 年	538	仏教公伝（日本書紀は 552 年）
飛鳥	推古 15 年	607	聖徳太子、法隆寺を創建
	天智 7 年	668	新羅の僧道行法師が、熱田の宮のご神体「草薙劔」を盗み出そうとして失敗 帰国を断念して当地の清水の岡（現在の八幡平井）に堂宇を営む 法海寺創建 法海寺の開基は、新羅国明信王の太子とされる道行法師、開山勤尊和尚（9 年 住職）、二代勤操和尚（13 年住職）、三代弘法大師（10 年住職） 天智天皇の御不豫を当山薬師如来に祈願して平癒した功により、「薬王山法海 寺」の勅額と寺田 280 町歩を賜る 天智 7 年 8 月 3 日
(白鳳)	天智天皇 7 年 ～天長 10 年	668 ～833	以下の天皇十三代にわたり勅願寺として堂宇壯観、内外十二院があったと伝え られている 天智（称制 661～668、在位 668～671）・天武（673～686）・持統（690～697） 文武（697～707）・元明（707～715）・[元正（715～724）]・聖武（724～749） 孝謙（749～758）・[淳仁（758～764）]・淡路廢帝・称徳（764～770） [光仁（770～781）]・桓武（781～806）・平城（806～809）・嵯峨（809～823） 淳和（823～833） （注）（ ）内数字は在位年、[] 内は儀軌に記述なし、孝謙と称徳は同一人物
	朱鳥元年	686	草薙劔は盗難事件の発生後宮中に保管されていたが、天武天皇のこの年に熱田 の宮に返還、このときの祭事が「醉笑人（えようど）神事」として現在も伝承
奈良 (天平 729～749)	和銅 5 年	712	「古事記」太安万呂により撰上
	養老 4 年	720	「日本書紀」舍人親王らにより撰上 法海寺の開基である道行法師が「日本書紀」卷二七の天智天皇七年の条につな がっている そこには、「沙門道行、草薙劔を盗みて新羅に逃げ向く、而して中路に雨風にあ いて、荒迷ひて歸る」と道行の名前が登場している
平安 初期	神護景雲元年	767	天台宗の開祖「最澄」誕生
	延暦 4 年	785	最澄、比叡山に入る
	延暦 7 年	788	「最澄」比叡山に一乗止観院（後の延暦寺）を造立
	延暦 23 年	804	「最澄」遣唐使として唐へ渡り、中国天台宗の奥義を修める
	延暦 24 年	805	「最澄」日本天台宗開宗
	弘仁 13 年	822	「最澄」没（56 歳）、比叡山大乗戒壇が嵯峨天皇により勅許
	弘仁 14 年	823	比叡山の一乗止観院を勅賜により、「比叡山延暦寺」とする

	年 号		事 象
	和 曆	西 曆	
平安後期 鎌倉	応徳～養和	1086～1182	市指定文化財制作年代『毘沙門天立像』
	寿永～元弘	1082～1333	市指定文化財 『密教仏具』『阿弥陀三尊像（吉祥院）』『不動明王立像（常光院）』 制作年代 『普賢菩薩坐像』『阿弥陀三尊像の阿弥陀如来像（大乘院）』
南朝	建武～元中	1334～1391	市指定文化財制作年代
北朝 室町	元徳～康応	1329～1389	『諸尊集会図』 『阿弥陀三尊像の観音・勢至菩薩像（大乘院）』
	明徳～天正	1390～1573	県・市指定 『涅槃像』『金剛界及び胎蔵界曼荼羅』『紅顔黎色阿弥陀如来図』 文化財制作年代 『釈迦十六善神像』『不動明王八大童子図』『山王本地仏曼荼羅』
江戸	応永 3 年	1396	法海寺という名前の記録上の初見 佐布里字地藏脇の雨宝山如意寺所蔵大般若経第六百卷奥書 「於尾州智多郡額石保法海寺理性房書写畢秃筆金剛資定叡」 応永 3 年 12 月 15 日
	文安元年	1444	「薬王山法海寺儀軌」著作 文安元年六月 日 大願主薬王山法海寺内寶幢坊住僧権大僧能慶
	慶長～慶応	1596～1868	市指定文化財 『御深井焼大花瓶』『御深井焼香炉』『鰐口（慶長十六年）』 制作年代 『法海寺仁王門』
	慶長 5 年	1600	九鬼氏焼き討ちにより一山焼失 以下、岩田愨太郎 著述「寺本法海寺の建築及須弥壇について」より引用 府志の法海寺の條に「…其餘什宝不少慶長五年九鬼大隅守嘉隆侵略縦火悉為烏有」とある如く、岩屋寺、大御堂寺等と共に、表知多一面の戦火を蒙っている のであるから、現存遺構（昭和 18 年当時）はすべて慶長五年以降のものと看做して 差支えなからう。 同寺所蔵の曼陀羅の修復名一中略一となっているのであるから、現存本堂は尠くとも 慶長五年以降慶長十五年乃至十八年迄の再建とみて間違いなからう。
	慶長 12 年	1607	大橋氏、法海寺に十王堂を建立
	慶長 16 年	1611	鰐口寄進 「奉寄進劔智多郡薬王山法海寺鰐口本願寺本平井村偏中敬白」「慶長 16 季亥辛九 月八日隣郷施主等」 慶長 16 年 9 月 8 日
	慶長 18 年	1613	本堂に奉納の牛若と弁慶絵馬 慶長 18 年癸丑卯月 3 日

年 号		事 象
和暦	西暦	
元和 3 年	1617	工藤、俣野の角力の絵馬 元和 3 年丁巳二月吉祥日
寛文 6 年 ～9 年 1666～1669		現在、境内の堂字の中で江戸時代の建物は仁王門のみである。仁王門の建立年代は、斗供、虹梁などの絵様の様式から判断して 17 世紀中頃のものともみられていたが、仁王像の制作年代を示す木札に「(表) 上宮伝太子宗流七拾二世 攝州四天王寺 藤原大佛師法橋 国見大新口長誉宗伝 (裏) 丙寛文六年 次男大佛国見左近 午九月吉日 京誉康盛造立」とあり、さらに平成 22 年の修理により大斗から「寛文六年之比より奉加仕候而建立 仕候同九年七月より取掛申候 大乘院法印叡運七十九弟子源祐□□ 吉祥院法印源榮四十六弟子鎮栄廿 常光院 祐海三十一」、木鼻から「二王門 寛文九己酉天七月初頃より 作事」とする墨書が発見されたことから、寛文 6 (1666) 年から同 9 (1669) 年頃にかけて造営されたことが判明した。
天和元年	1681	御深井焼大花瓶寄進 尾張藩主 12 代目光友公 年号は「八幡の語り草」144 話「御深井焼大花瓶と虫供養組」の記述を採用したが、知多市誌資料編二 (P381) には次のように記されている。『寛文 12 (1672) 年に、それまで光義と称していたのを光友と改めているので、寺本組が拝領したのは寛文 12 年以後であり、隠居して国元へ帰り大曾根の下屋敷に居住したところと推定すれば元禄 6 (1693) 年以降のことになる。』
享保 15 年	1730	仁王門屋根葺き替え、東妻面の肘木に墨書 享保 15 年 3 月 22 日
寛政 11 年	1799	知多郡西浦十四ヶ村供養由来 著作 寛政 11 年 11 月吉日
天保年間 1830～1843		尾張名所圖會編纂 卷之六に法海寺全景俯瞰図と説明が掲載
文政 5 年	1822	仁王門東面柱修理時期・屋根葺き替え、卷斗・大斗に墨書 文政 5 年 11 月 3 日
明治 9 年	1876	知多郡西浦十四ヶ村供養解散
明治 22 年	1889	内務省から金百圓下賜 明治 22 年 1 月 7 日
大正 3 年	1914	大正 3 年 7 月 8 日鏡瓦掘り出し 八幡字月山 濱岡佐一郎氏所蔵 鏡瓦の文様は、十字花形と雙葉形の変化したものと思われ、その系統は遠く中国の唐時代まで遡らしめ得るもので、朝鮮の高句麗時代の遺瓦の文様の系統に属するものであると考える。この法海寺遺瓦の時代は同寺心礎と同時代すなわち奈良時代であると思う。(坂 重吉 著から引用)
大正 15 年	1926	本堂屋根葺替大修理、仁王門屋根葺替修繕、愛染堂修繕 大正 15 年 11 月 1 日

年 号		事 象
和暦	西暦	
昭和 18 年	1943	名古屋郷土研究会実地踏査（後に名古屋郷土文化会に改称） 「尾張の遺跡と遺物」52号に調査成果を特集掲載
昭和 24 年	1949	知多市の寺本、東海市の清水・姫島とで虫供養復活 寺本地区は常光院、清水地区は清水寺、姫島地区は玄猷寺の三地区持ち回り 西浦十四ヶ村から受け継いだ掛軸、大勢至菩薩（寺本）・阿弥陀如来（清水）・観世音菩薩（姫島）を持ち寄る
昭和 30 年	1955	名古屋郷土文化会会員 30 余名宝物見学 昭和 30 年 2 月 20 日 八幡町史編纂委員会による研究が始まる。
昭和 32 年	1957	仁王像大修理 昭和 32 年 10 月 杉崎が指導していた横須賀中学校郷土クラブによる調査では、常光院の入口に近い地点で良好な瓦溜 1 個所を検出した。
昭和 33 年	1958	当時、国立奈良博物館長をしておられた石田茂作博士のご来駕をねがい、法海寺につたわる宝物の査定をもとめ、とくに古仏画についての精密な鑑定をしていただいた。その当時、愛知県文化財保護委員をかねておられた石田博士は、その中の数点を県指定文化財と同程度の価値あるものと評価された。
昭和 34 年	1959	『涅槃像』『金剛界及び胎藏界曼荼羅図』（法海寺） 昭和 34 年 1 月 16 日県文化財指定 『紅顔黎色阿弥陀如来像』（法海寺） 昭和 34 年 10 月 8 日県文化財指定
昭和 48 年	1973	八幡福祉会館建設予定地の発掘調査開始 昭和 48 年 11 月 3 日
昭和 50 年	1975	仁王門塗装 昭和 50 年 6 月
昭和 51 年	1976	『御深井焼大花瓶』（法海寺） 昭和 51 年 2 月 20 日市文化財指定
昭和 53 年	1978	『密教仏具』『鰐口』『御深井焼香炉』（法海寺） 昭和 53 年 11 月 10 日市文化財指定
昭和 54 年	1979	八幡福祉会館建設予定地の発掘調査報告書「法海寺遺跡」（知多市文化財報告 第 15 集）発行 昭和 54 年 3 月 28 日
昭和 57 年	1982	法善堂・十王堂落慶法要 昭和 57 年 2 月 28 日
昭和 62 年	1987	本堂屋根互修理、仁王門破風軒瓦修理 昭和 62 年 12 月

年 号		事 象
和暦	西暦	
平成 3 年	1991	八幡字平井 19 番地に所在する、弥生・古墳時代の遺物散布地・貝塚及び古代寺院址の発掘調査、弥生時代の人骨 3 体発掘 平成 3 年 11 月 4 日～12 月 1 日
平成 4 年	1992	本堂解体・新築 平成 4 年 11 月 8 日落慶
平成 5 年	1993	八幡字平井 19 番地に所在する、弥生・古墳時代の遺物散布地・貝塚及び古代寺院址の発掘調査報告書「法海寺遺跡Ⅱ」（知多市文化財報告 第 31 集）発行 平成 5 年 8 月 1 日発行
		法海寺発掘出土品展 平成 5 年 8 月 1 日～8 月 30 日
平成 10 年	1998	『諸尊集会図』『釈迦十六善神像』『不動明王八大童子図』『山王本地仏曼陀羅』 (法海寺) 平成 10 年 3 月 5 日市文化財指定
平成 12 年	2000	『阿弥陀三尊像』（吉祥院）『阿弥陀三尊像』（大乘院） 『不動明王立像』（常光院）『普賢菩薩坐像』（法海寺） 平成 12 年 3 月 9 日市文化財指定
		知多市文化財展 平成 12 年 10 月 20 日～12 月 3 日
平成 15 年	2003	法海寺の文化財展 平成 15 年 9 月 20 日～10 月 19 日
		岡崎市美術博物館 天台のほとけ —その美術と三河の歴史— 紅顔黎色阿弥陀如来図・山王本地仏曼荼羅・密教仏具出品 平成 15 年 10 月 25 日～12 月 14 日
平成 18 年	2006	『毘沙門天立像』（法海寺） 平成 18 年 3 月 1 日市文化財指定
		名古屋市博物館 天台宗開宗 1200 年記念企画展 比叡山と東海の至宝—天台美術の精華— 金剛界及び胎蔵界曼荼羅・紅顔黎色阿弥陀如来図・諸尊集会図・密教仏具・山王本地仏曼荼羅出品 平成 18 年 10 月 21 日～12 月 3 日
平成 19 年	2007	知多に伝わる信仰仏展 平成 19 年 10 月 20 日～12 月 2 日
平成 20 年	2008	『仁王門』（法海寺） 平成 20 年 12 月 15 日市文化財指定

年 号		事 象
和暦	西暦	
平成 22 年	2010	仁王門・仁王尊像全解体保存修理 平成 22 年 3 月 8 日落慶
		八幡の文化財展 平成 22 年 7 月 24 日～8 月 29 日
平成 26 年	2014	知多市の寺院・神社に眠る美術工芸品展 平成 26 年 7 月 19 日～8 月 31 日
平成 27 年	2015	護摩堂建立 平成 27 年 3 月 26 日落慶
		喜笑龍（きしょうりゅう）本堂前に設置 平成 27 年盆
平成 28 年	2016	安城市歴史博物館 聖徳太子絵伝模写完成記念特別展「まねる うつす つたえる」 涅槃像出品 平成 28 年 9 月 24 日～11 月 6 日
平成 29 年	2017	法海寺創建 1350 年記念事業（八幡まちづくりセンター文化祭） —法海寺大百科展— 開催 平成 29 年 11 月 4・5 日 八幡まちづくりセンター文化祭参加記録「法海寺大百科展」発行 平成 29 年 11 月 30 日
平成 30 年	2018	法海寺展開催（知多市歴史民俗博物館）
		創建 1350 年記念祭 平成 30 年 11 月 11 日開催